

更なる考察

- 対話→ひとりごとでの思考→発声を抑える→黙考
- 仮想的身体運動としての想像(月本)
- 黙考が出来ないときにひとりごとが発生する。
- ひとりごとの条件は発声を抑えることができない状況を表している。

言語間の相違I

- 聞き手目当てのモダリティが頻繁に用いられる言語では聞き手目当てのモダリティを落とせば、スティグマから逃れることが出来る。(日本語、中国語、韓国語)
- 聞き手目当てのモダリティが存在するが、それほど頻繁ではない言語では聞き手目当てのモダリティを落としても、聞き手に向かって話している可能性があるため、ひとりごととは間投詞など感情の放出が強い表現に限られる。(英語以外のゲルマン語)

言語間の相違II

- 聞き手目当てのモダリティを持たない言語では聞き手目当てのモダリティを落としてひとりごとに対するスティグマを逃れることが出来ない。形を整った表現はひとりごとで言えず、抑えることができない間投詞などの表現のみがひとりごとで使える。(英語、ロシア語)

ひとりごとの研究の意味

- マージナルに見える現象でも理論的に考えれば、さまざまなことが見えてくる。
- 先行研究における観察を理論的枠組みに入れて考えることでなぜそのような現象が観察されたかが明らかになってくる。
- 細かい現象の観察と大きな理論的枠組みとの連携が重要である。
- 語法研究的な細かい観察と大きな理論的枠組みとの間に往々にして乖離があり、研究者間のディスコミュニケーションが生じている。